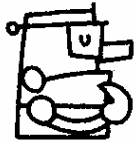


小 / 理科 / 6年 / 物質とエネルギー /
水溶液の性質 / 理解シート

水にとけるとアルカリ性になる物は、何があるの



気体のアンモニアや、固体の水酸化ナトリウム、石灰
などが水にとけると、アルカリ性の水溶液すいようえきになるのさ。

水にとけるとアルカリ性になる物としては、トイレのにおいであるアンモニアがあります。アンモニア水はアンモニアが水にとけた物で、アンモニア水においては、空気中に飛び出してきた気体のアンモニアのにおいなのです。

固体の水酸化ナトリウムを水にとかした水溶液は、強いアルカリ性を示します。
消石灰しょうせっかい（水酸化カルシウム）も、水にとけるとアルカリ性の水溶液になります。

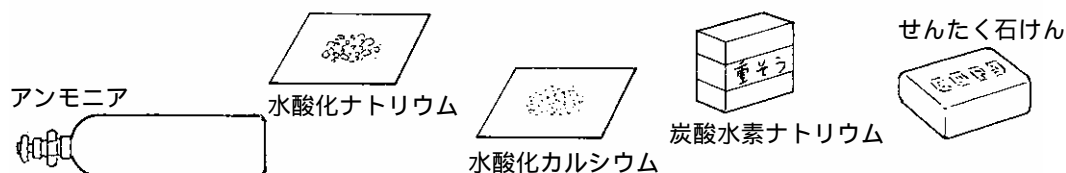
パンをふくらませるのに使う重そう（炭酸水素ナトリウム）も、水にとけると、弱いアルカリ性の水溶液になります。

せんたく用の固形石けんをとかした液も、弱いアルカリ性の水溶液になります。
いろいろな物をとかしている海水も、ふつうは、弱いアルカリ性水溶液です。

アルカリ性水溶液は、水にとけて酸になる気体を、よくとくす

石灰水せっかいすいは、二酸化炭素をよくとかし、とけた二酸化炭素と化学変化を起こして、水にとけない炭酸カルシウムという物に変わります。そのため、二酸化炭素があると液が白くにごるので、二酸化炭素を確かめる薬品としてよく使われます。

地球の表面の約70%をしめる海が、アルカリ性のため、空気中の二酸化炭素をとかしやすく、二酸化炭素がふえるのを防ぐのに役立っているといわれています。



水にとけてアルカリ性水溶液になる物